

(様式2)

## 学校関係者評価報告書

愛媛県立北宇和高等学校三間分校  
学校番号(43)

評価実施日	令和5年2月17日(金)		
委員	氏名	所属等	備考
	稲田 司	司法書士	
員	渡辺 吉男	道の駅みま 出荷部会会長	
	谷口 友宏	宇和島市立三間公民館長	
	樋口 宏治	吉田三間商工会議所副会長	
	山田 慎一	P T A会長	
	高野 良二	宇和島市立三間中学校教頭	

評価・提言等	提言等に対する改善方策等
1 今年度の最終評価について (学校評価アンケートを踏まえて)	
(1) 学校経営について 生徒一人一人のよさをみつめのばす教育の実践を行っている。コロナウイルス感染症拡大の影響で、さまざまな行事が縮小されてしまったが、限られた中でも地域の行事に積極的に参加している。人数の多い、少ないは一つも苦にせず、地域になくはならない高校として魅力をアピールしてほしい。	北宇和高等学校三間分校となっても、三間高等学校の教育目標であった「生徒一人一人のよさをみつめのばす教育」を掲げ、実践している。教科活動や地域に根差した活動などで、三間分校としての魅力を更に高めていきたい。
(2) 教科指導について 多様な習熟度の生徒に対応するために、学習支援員や補助教員を配置するなど、きめ細かな指導を行っている。「学習指導」について、生徒の評価や保護者の評価が低いようであるが、コロナ禍でのいろいろな制限が、やる気の低下や無気力の生徒を生んだのではないだろうか。学校の方としては、来年さらに授業を改善されると思う。	教職員の中には、生徒の一人一台端末を使用した授業実践がまだ実施できていない者もいるので、教職員のICT研修を充実させ、授業改善を図りたい。
(3) 生徒指導について マスクの影響か、生徒は、挨拶の声が小さく、元気がないようだ。校外で自ら進んで挨拶ができるようになってほしい。 生徒数の減少で、部活動が低迷しているのが残念である。 今後も地域と連携した活動を積極的に行ってほしい。	挨拶については、正門で教職員による朝の声掛けを行った。積極的に挨拶ができるよう、これからも働きかけを継続していきたい。 部活動に所属し、活動している生徒については、よく頑張ってくれていると感じる。ただ、名前だけの生徒が年々増えてきており、そこをどうにかしていきたい。現在、部活動以外の校外活動が盛んになってきており、バランスを考え、生徒にとってプラスになる活動の在り方を探していきたい。
(4) 進路指導について 進学も就職も生徒の進路希望実現のために丁寧な指導が行われており、今年度の卒業生は、全員が何らかの資格を取得しており、評価できる。	本校では例年、地元企業への就職をする生徒が多くなっている。離職する場合もあるが、大部分の生徒は、地元を支える存在となっている。これからも、就業体験などの実践的なキャリア教育を充実させ、早期離職者を減らし、地域に貢献する生徒を育成できるよう、きめ細かな指導を行ってほしい。
(5) 人権教育について 「人権だより」を校内だけでなく、中学校や公民館、隣保館に配布し、生徒の人権作品や人権行事の振り返りを紹介している。コロナ禍においても学校行事等を工夫して実施してもらっている。今後も積極的に行ってほしい。	生徒一人一人を見つめ伸ばす教育の実践を今後も継続していきたい。昨年度の反省に基づき、リモートによる公開授業を実施することができた。今後もICT機器をうまく活用し、保護者や地域の方々に学校の活動を伝えていきたい。さらに、生徒の心の悩みに対する指導・支援体制の一層の充実を図りたい。
(6) 特別支援教育について 多様な生徒のニーズに対応した支援体制がとられている。少人数できめ細やかな指導ができており、通級指導もできているということが、三間分校の一番の強みだと思う。一般の学校で、支援しながら生徒を卒業させることは大変なことだと思っている。保護者が子供を安心して預けられる学校があることはいいことだと思う。	来年度以降も、支援を必要とする生徒は増加していく可能性が高い。これまで行っている学習支援員や授業補助教員による学習支援を継続し、生徒一人一人のニーズに対応したきめ細かな指導を行いたい。通級指導を希望する生徒も増加することが考えられるので、通級指導を行う方法についても、より効果が高まるように工夫していきたい。
(7) 学校安全と防災について 今年度も三間分校の防災教育に関わることができ、参加者一同喜んでいる。豪雨や地震などの災害においては、高校生は地域から守られる存在ではなく、地域を守る存在となる。これからも防災教育に力を入れてほしい。	今後も防災訓練や防災行事、高校生防災士の養成など、高校生の防災意識を高めるための特色ある活動に取り組んでいきたい。
2 来年度の学校運営への提言 三間分校として2年目が終わるが、三間高校時代に築いた地域に根差した地道な活動を継続できており、今後も積極的に情報発信をしてほしい。人数は心配することはないので、具体的にもの考え行動できる人、失敗しても自分の考えていることが行動に出せる人、そういう生徒を育ててほしい。	来年度は、くくり募集を実施する。出願時点で学科希望を定めることが難しい中学生も 入学後に学科を選択することができる。より時間をかけて自分に合った進路を見極めることができる。考える。「社会的自立力の育成」を目指し、「自ら考える力」や「豊かな心」、「地域に貢献する心」を育てていきたい。